

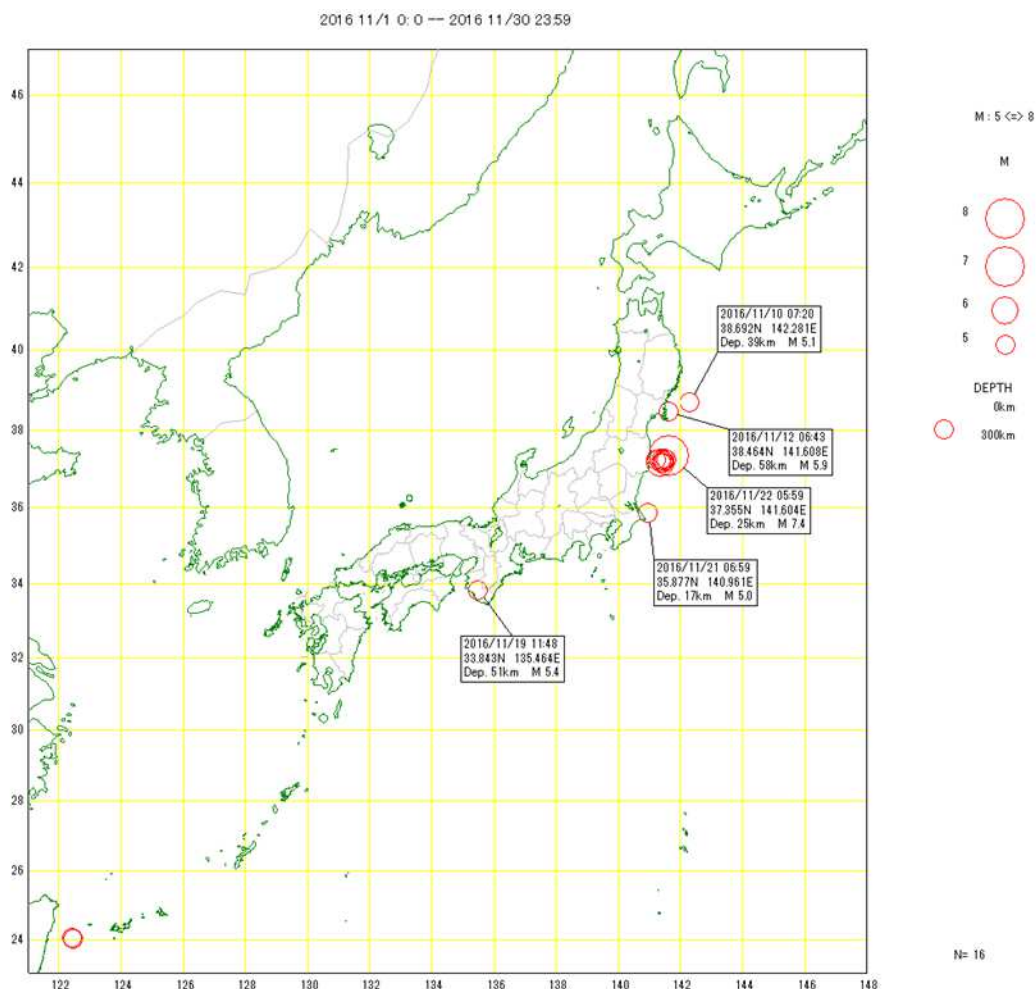
**2016年11月の地震活動概観**

11月で最も顕著な地震活動22日に発生した福島沖のマグニチュード 7.4 の地震でした。この地震では津波警報および注意報が発令され、NHK等のテロップでは「津波！逃げる！」という衝撃的な言葉が使われました。これには歴史的な経緯があります。今から30年以上前までは、「オオツナミ、ツナミ」というように数値を示さない警報の時代が続きました。その時代に北海道西方沖地震(1993年)が発生し、奥尻島で大きな津波被害が出た事を記憶されている方も多い事と思います。その結果、やはり数値を発表しようということになり、1999年以降、大津波(高いところで3m以上)というような発表となりました。

そのような状況のもとで、東日本大震災が発生し、「3mという数値が被害を大きくしたのでは？」という意見も出されるようになりました。気象庁としては踏んだり蹴ったりで、「数値を言えと言われて、津波の高さを数値で言うようにしたら、今度は言うな」ということになってしまったのです。

そのため、現在では津波警報を上回る「大津波警報」というものが新設されました。また津波の高さも具体的な数値はあるのですが、「巨大」な津波という表現を用いるようになっています。

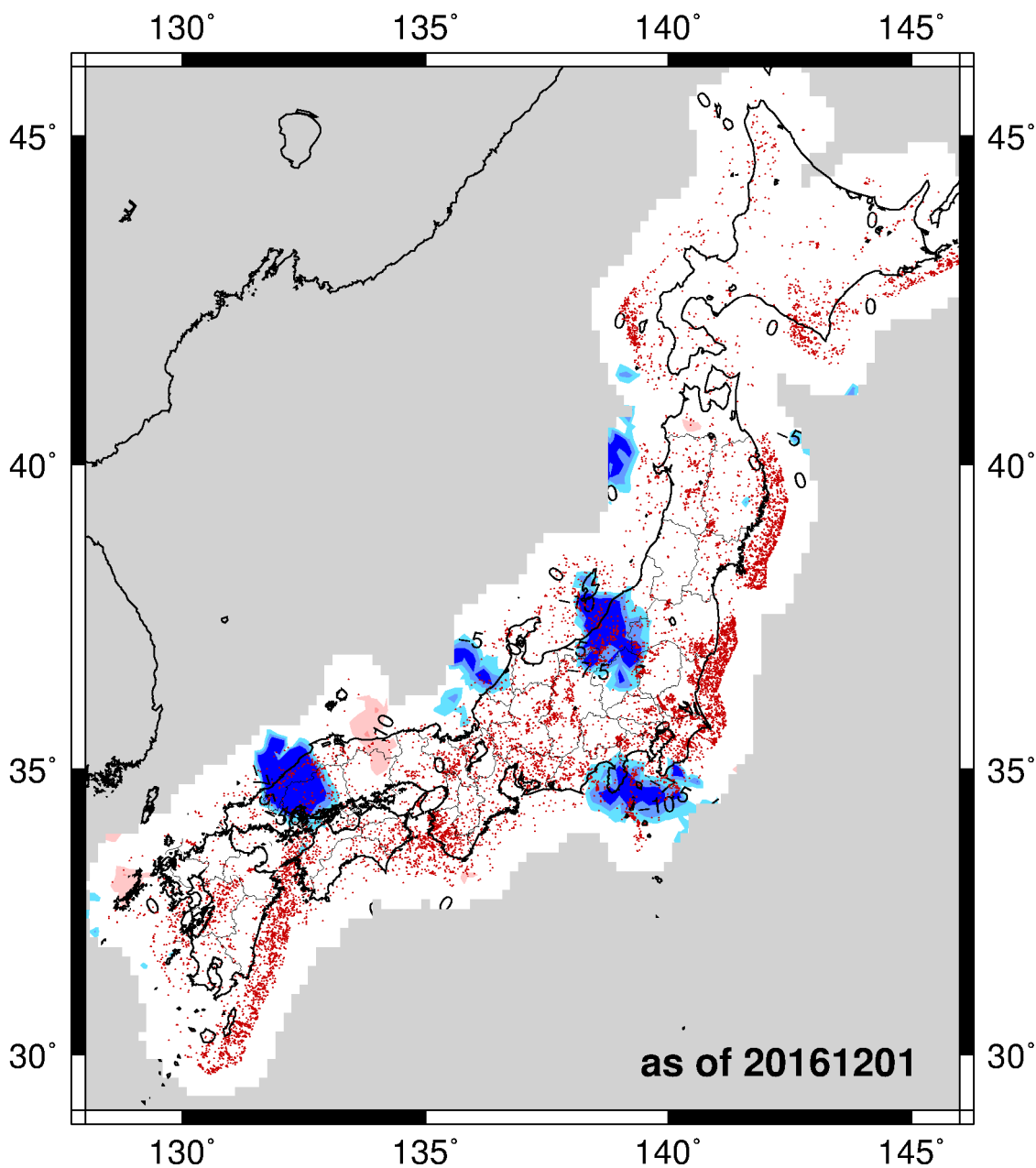
下の図は11月に発生したマグニチュード5以上の地震の分布です。11月は16個の地震が発生しました。ちなみに10月は10個、9月は17個、8月は13個発生していました。やはり福島沖での活動が顕著な一か月でした。





## 日本列島陸域の地下天気図<sup>®</sup>解析

下の地下天気図は12月1日時点の陸域の地震にターゲットを絞った地下天気図です。



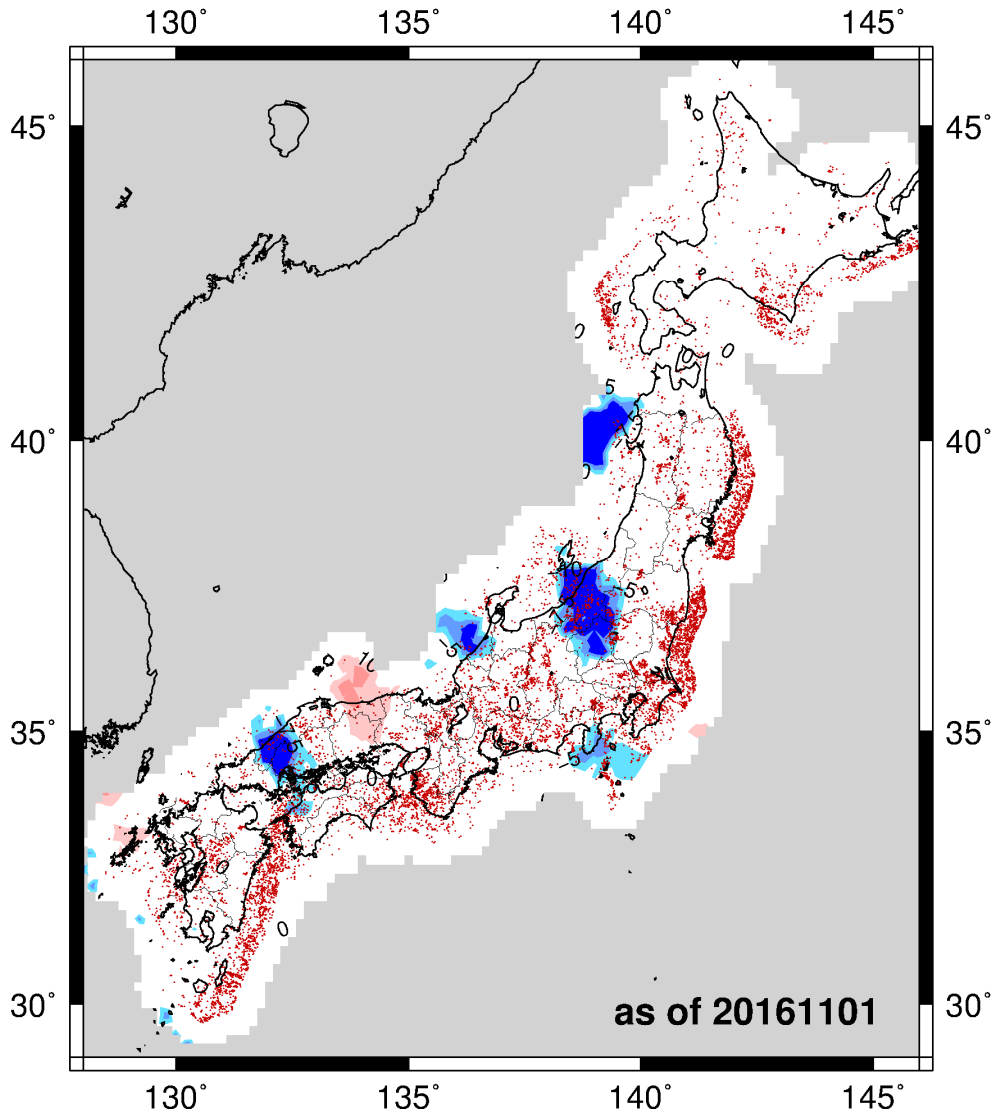
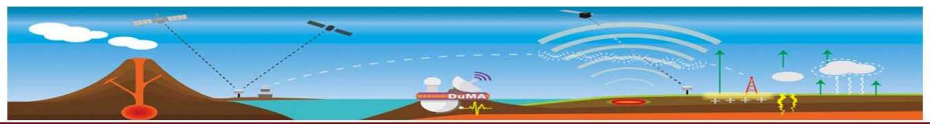
次のページに比較のために、11月1日の地下天気図を掲載しますが、先月からの変化として、

- 1) 中国地方(瀬戸内海・四国北部を含む)の静穏化異常が再び進行しだした。
- 2) 新潟県を中心とする北信越地域の異常も拡大している。
- 3) 伊豆半島から相模湾・房総半島沖の異常も進行している。

また陸域ではありませんが、解析範囲の中では

- 4) 秋田県沖の異常は縮小傾向を示している。 という事ができると思います。

地震はこれまでの経験則では、異常の中央というより周辺部ないし、異常の少し外側で発生する可能性が大きい事が知られています。概ねどの地域に異常が出現しているかを最重要視して頂けると幸いです。



2016年11月1日時点の地下天気図(再掲)